

文化の交差点

bunka to bunka no kousaten

2021年星祭号



contents

サークル見聞録

演劇研究会

早大劇研“再生”企画公演「サンカク」
『ジジイ・オブ・ザ・デッド』 p 1

劇団木霊

2021年本公演『YOKO』 p 2

文化の案内板

マンドリン楽部

第205回定期演奏会 p 3

舞台美術研究会

2021年度春季研究会公演『SENSE』 p 3

Essay

戦争・貧困・環境を考える会

「こんな活動やってます」 p 4

文化の散歩道 p 5

「文化の交差点」2021年星祭号

発行日:6月30日

発行者:「文化の交差点」編集委員会

連絡先:090-2331-4456

waseda-bunren@hotmail.co.jp



早大劇研“再生”企画公演「サンカク」 『ジジイ・オブ・ザ・デッド』

(5月16日～5月30日 オンライン配信)



コロナ禍をくぐりぬけて久々の劇研の公演。しかも、三人の新たな脚本の書き手が競い合う早大劇研“再生”企画公演「サンカク」とあっては、いやがおうにも期待は高まる。

二本目の「ジジイ・オブ・ザ・デッド」。役者は昨年入会の二年代が中心なのだろう。一年間、演劇ができず鬱積したエネルギーが爆発していた。時として情熱があふれすぎて話がよく分からなくなったところもあったが…。それにしてもユニークな顔つきの役者が集まっている。一人ひとりの役者の個性がうまく引き出されていると思う。

新たな才能がひしめき合って劇研の新時代が切り拓かれる、そんな予感を感じさせる公演だった。閉塞した時代を吹き飛ばす突破力に期待。今度はぜひアトリエで生で見たい！

(蛙跳)

早大劇研“再生”企画公演「サンカク」再配信中！

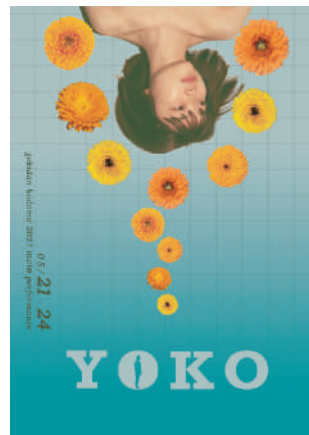
〈販売期間〉 6月22日(火)19:00～7月5日(月)23:59

〈視聴可能期間〉 視聴用ページにログイン後、14日間

〈販売ページ〉 <https://s.confetti-web.com/detail.php?tid=61749&>

劇団木霊2021年本公演
『YOKO』を観て

(5月21日～5月24日 オンライン配信)



すごく良かったです。

はじめはヨウコと周りのテンションの高さに、また会話の進む速さに置いてかれまいと必死でしたが、地下のYOKOがカメラの光を浴びて倒れた瞬間から一気に惹きこまれていきました。

ヨウコの友達・ヒヨドの突然の死や、ノグロが炎に包まれて宇宙へと旅立つシーンが印象的です。どの人も命を落としていきますが、それが次の展開へとしっかりと引き継がれているように感じて、人の死を扱っているにも関わらずなぜか生き生きしたものに私には見えました。

個人的には、優等生で道から外れたことのないヒヨドの内面世界を、ジャングルジムのような構造物とその中の人物が表現していたところが、面白かったです。

最後、ヨウコが再び地下のYOKOと（想像の世界で？）出会い、彼女を地上へと引き連れていくところは、やはりYOKOが地上の光に耐えられなくて、悲しい気持ちになりました。しかしヨウコが最後に叫んで終わるシーンでは、ただ悲しいだけでもないような気持ちにもさせられました。なんとも余韻の残る結末でした。役者・スタッフの皆さん、全身全霊での制作お疲れ様です！

(練切)



マンドリン楽部 第205回定期演奏会

2021年7月3日(土) 13時45分 開演

<https://youtube.com/channel/UCSkELYwbv95yqNR-8nvV91A>

(マンドリン楽部公式チャンネル)にてリアルタイム配信

♪ 曲目 ♪

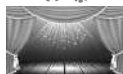
【1部】

スラヴ舞曲 第8番 / A. ドヴォルザーク
作曲 / 進藤知哉 編曲
スラヴ舞曲 第10番 / A. ドヴォルザーク
作曲 / 赤城淳 編曲
《ペールギュント》第一組曲より山の魔
王の宮殿にて / E. グリーグ 作曲 / 赤
城淳 編曲

【2部】

《真夏の夜の夢》より序曲 /
F. メンデルスゾーン 作曲 / 久松祥三 編曲
《真夏の夜の夢》よりノクターン /
F. メンデルスゾーン / 赤城淳・曾根知輝 編曲
《魔弾の射手》より序曲 /
C. M. v. ウェーバー 作曲 / 高中亞鈴治 編曲

演劇



舞台美術研究会 2021年度春季研究会公演 『SENSE』



映像配信方法・配信日未定（続報を待て！）

※当公演は新型コロナウイルス感染状況を踏まえた学生生活課の要請により、有観客公演から映像配信による公演に変更することとなりました。

【あらすじ】

「週刊少年センス」という漫画雑誌を発行している小さな出版社。一人の売れない漫画家が、今まさに新しい原稿を持ち込もうとしていた。個性豊かな編集部の人たちに囲まれて、彼は自らのセンスを磨くために奮闘する。そんな中、漫画のキャラクターが現実世界に現れて…。

Twitterにて情報発信しております。以下の舞台美術研究会2021年度春季研究会公演『SENSE』Twitterアカウントよりご確認ください！
舞台美術研究会76期募集中！！

舞台美術研究会2021年度春季研究会公演『SENSE』
Twitterアカウント @haruken2021
舞台美術研究会Twitterアカウント @butabi_w

こんな活動やってます

「久しぶり」

大学による長い活動規制を経て、徐々にサークルで対面の部会ができた。そこにはオンライン部会の待機室とはうって変わって、部会前のおしゃべりを楽しむサークル員の姿があった。もちろん、消毒・換気は万全だ。「オンライン授業ばかりで気が滅入る」。切実な声をあげていた新入生も喜んで参加してくれた。



私たちのような研究サークルとて、いや、だからこそ対面での部会は重要な意義を持つ。チューターの提起に意見が出ると、誰かが「うん」と相槌を打つ。隣の彼は何か言いたげに視線を投げかけている。オンラインでは弾かれ消える各人の“声”が寄り集まって、ひとつの生きた部会を形作っていくのだ。サークル研究活動の真価はここにある、と思わされた。

部会のテーマは沖縄辺野古の新基地建設について。6月23日、沖縄は76回目の「慰霊の日」を迎えた。本土決戦の「捨て石」にされた沖縄では県民の4人に1人が亡くなった。犠牲者を悼むおじいおばあの声は胸に苦しい。その沖縄で菅政権はいま、反対の声を踏みにじって米軍辺野古新基地の建設を遮二無二推し進めている。それも核戦力さえ有する、米日両軍の出撃拠点としてである。

沖縄ではこの6月にも立て続けに米軍ヘリの不時着事故が起きた。米軍機の事故は訓練の激化に連動する、とチューターは提起する。米日の軍事演習が急増する今、沖縄の人々は絶えず命と生活を脅かされ続けている。たとえどんな理不尽があれ、政府が進める日米安保の強化は常に沖縄の人々を踏みにじる。この矛盾から目をそらさず、現在の戦争的危機と向き合わなければならないという思いを強くした。

(戦争・貧困・環境を考える会会員)

文化の散歩道

梅雨の晴れ間に
戸山の丘で見かけたトンボ。夏が待ち遠しい…



「文化の交差点」

編集委員会より

「文化の交差点」は、ジャンルの垣根を超えてサークルどうしの交流を活発にし、早稲田サークル文化をより豊かにすることを目指して発刊しているサークル交流誌です。サークルの公演・演奏会・発表会の情報をはじめ、文芸作品やエッセイの投稿をお待ちしています。

お問い合わせは
090-2331-4456
waseda-bunren@hotmail.co.jp
まで